

II 事業実施状況

1 相談・診断・評価

★ 平成17年度の数字は、平成17年12月31日現在

事業名	実施結果	成果	課題																		
支援コーディネーター配置	<ul style="list-style-type: none"> 平成16年度から相談部に2名の非常勤職員を配置 相談、支援計画作成 相談受付数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>支援者数</th> <th>延べ回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度</td> <td>45名</td> <td>統計なし</td> </tr> <tr> <td>★17年度</td> <td>63</td> <td>279回</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 地域の相談機関や通所施設とのカンファレンス：15回 障害者生活支援センターのコーディネーター連絡会参加：3回 <p>* 国のモデル事業としての事例登録数：6件 支援経過を報告</p>	年度	支援者数	延べ回数	16年度	45名	統計なし	★17年度	63	279回	<p>身体障害者更生施設に3人入所、精神障害者小規模作業所に1人通所、心身障害者地域デイケア施設に2人通所、その他の施設に2人通所を支援</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 常時、相談を受けたり、他の機関と連携を図る必要があるため、常勤の支援コーディネーターを配置する必要がある。 2 連続した支援のため、市町村、障害者生活支援センターとの連携を深める必要がある。 									
年度	支援者数	延べ回数																			
16年度	45名	統計なし																			
★17年度	63	279回																			
高次脳機能障害専門外来	<ul style="list-style-type: none"> 毎週月曜日（定員1名）、毎月第1、3、5木曜日（定員2名） インテーク面接、診察、神経心理学的検査、指導 実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>相談</th> <th>外来受診</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13年度</td> <td>50件</td> <td>28件</td> </tr> <tr> <td>14年度</td> <td>74</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>15年度</td> <td>92</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td>168</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>★17年度</td> <td>198</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table>	年度	相談	外来受診	13年度	50件	28件	14年度	74	45	15年度	92	53	16年度	168	82	★17年度	198	65	<p>支援コーディネーターとインテーク段階から役割分担するなどの連携が図れた。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談・外来件数が増加しているが、現在のスタッフだけでは対応が困難となる恐れがある。 2 県リハ以外に診断・評価ができる場所を確保する必要がある。 3 外来受診後、社会資源が少ないことや家庭崩壊のケースもあり地域にスムーズにつなぐことが難しい。
年度	相談	外来受診																			
13年度	50件	28件																			
14年度	74	45																			
15年度	92	53																			
16年度	168	82																			
★17年度	198	65																			

2 治療・訓練

事業名	実施結果	成果	課題																		
外来患者のグループ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第2、4木曜日 ・当事者グループ メモリーノートの活用、社会性やコミュニケーション技術の向上を図るために、当事者毎に目標を設定した。また、理解促進のために、当事者・家族合同のグループを実施した。 ・家族 家族同士の交流、情報交換により、当事者への理解を深め、支援の向上を図った。 ・実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>当 事 者</th> <th>家 族</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13年度</td> <td>6名</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>14年度</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>15年度</td> <td>8</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>★17年度</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	当 事 者	家 族	13年度	6名	2名	14年度	7	5	15年度	8	6	16年度	7	5	★17年度	9	7	<p>目標設定、評価を通じて、現実認識の向上、変化達成の確認が図れた。 ほとんどの参加者が目標を達成でき、目標の上方修正を行えた。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 指導期間の設定 2 グループ終了後のフォロー体制 3 個人指導とグループ指導の有機的連携 4 効果の評価
年 度	当 事 者	家 族																			
13年度	6名	2名																			
14年度	7	5																			
15年度	8	6																			
16年度	7	5																			
★17年度	9	7																			
音楽療法	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法を通じて心身に障害のある入院患者の治療効果を高める。 ・実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>モデル事業対象者</th> <th>希 望 者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13年度</td> <td>延べ 30名</td> <td>延べ 139名</td> </tr> <tr> <td>14年度</td> <td>延べ 148</td> <td>延べ 296</td> </tr> <tr> <td>15年度</td> <td>延べ 142</td> <td>延べ 449</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	モデル事業対象者	希 望 者	13年度	延べ 30名	延べ 139名	14年度	延べ 148	延べ 296	15年度	延べ 142	延べ 449	<p>単調な入院生活リズムに変化を与えたり、音楽を通して仲間意識や患者間の交流が増した。</p>	<p>音楽という媒体だけでなく、興味、関心のある話題を日常の看護の中で聞くというゆとりのある関わりができる工夫をしたり、患者同士の交流の場を提供したり、患者とともに楽しむための時間を持つ。</p> <p>音楽療法は時間と継続が必要なので、家族や地域支援の協力が必須である。</p>						
年 度	モデル事業対象者	希 望 者																			
13年度	延べ 30名	延べ 139名																			
14年度	延べ 148	延べ 296																			
15年度	延べ 142	延べ 449																			

<p>障害者手帳未所持者の更生施設への受入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援目標 障害の認識を深める。 記憶障害に対する代償動作の獲得（メモリーノートの習慣化） 生活面で前向きな意欲促進のための体力強化 就労援助 ・ 実績 <table border="1" data-bbox="524 411 1296 703"> <thead> <tr> <th>利用者</th> <th>年齢</th> <th>結 果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 入所</td> <td>24歳</td> <td>家庭復帰</td> </tr> <tr> <td>B 入所</td> <td>45</td> <td>病気再発により死亡</td> </tr> <tr> <td>C 通所</td> <td>47</td> <td>就職</td> </tr> <tr> <td>D 入所</td> <td>54</td> <td>デイケア施設通所</td> </tr> <tr> <td>E 入所</td> <td>49</td> <td>就職</td> </tr> <tr> <td>F 入所</td> <td>24</td> <td>現在更生施設入所訓練中</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 手帳所持者の訓練状況</p> <table border="1" data-bbox="524 767 1296 1026"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13年度</td> <td>36名</td> </tr> <tr> <td>14年度</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>15年度</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>★ 17年度</td> <td>47</td> </tr> </tbody> </table>	利用者	年齢	結 果	A 入所	24歳	家庭復帰	B 入所	45	病気再発により死亡	C 通所	47	就職	D 入所	54	デイケア施設通所	E 入所	49	就職	F 入所	24	現在更生施設入所訓練中	年 度	人 数	13年度	36名	14年度	42	15年度	26	16年度	60	★ 17年度	47	<p>若干でも障害認識が進み、代償動作の獲得に改善が見られた症例や、障害が重度でも地域資源の利用に結びついた症例、就職につながった症例が見られたことは、施設での訓練、支援が有効であったと考えられるため、今後も継続した受入れが望ましい。</p>	<p>受入れに妥当な症例、時期の検討</p>
利用者	年齢	結 果																																		
A 入所	24歳	家庭復帰																																		
B 入所	45	病気再発により死亡																																		
C 通所	47	就職																																		
D 入所	54	デイケア施設通所																																		
E 入所	49	就職																																		
F 入所	24	現在更生施設入所訓練中																																		
年 度	人 数																																			
13年度	36名																																			
14年度	42																																			
15年度	26																																			
16年度	60																																			
★ 17年度	47																																			

3 啓蒙・啓発

事業名	実施結果	成果	課題												
地域施設への支援	<ul style="list-style-type: none"> 平成15年度に実施 高次脳機能障害者支援及び職員への技術的支援 対象施設 心身障害者地域デイケア施設 1箇所 精神障害者小規模作業所 1箇所 通所中の高次脳機能障害者の神経心理学的評価を実施 個々の高次脳機能障害者への対応方法等を家族や職員に説明 	<p>通所施設内での対応等が改善された。</p> <p>施設に対してどのような技術的支援が必要か知ることができた。</p>	<p>施設に対して専門機関が効果的な技術的支援をするための仕組みを検討する必要がある。</p>												
研修会	<ul style="list-style-type: none"> 対象者 障害者地域生活支援センター、心身障害者地域デイケア施設、精神障害者小規模作業所、身体障害者授産施設、精神障害者生活訓練施設等 地域の支援者としての知識、理解、支援技術の習得、ネットワークづくり 実績（年1回開催） <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13年度</td> <td>39名</td> </tr> <tr> <td>14年度</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>15年度</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>16年度</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	参加者数	13年度	39名	14年度	25	15年度	46	16年度	32	17年度	50	<p>地域の支援者としての知識、理解、支援技術の習得に効果があった。</p>	<p>参加者があまり伸びなかったので開催日、研修内容等に工夫が必要である。</p>
年 度	参加者数														
13年度	39名														
14年度	25														
15年度	46														
16年度	32														
17年度	50														
公開講演会	<ul style="list-style-type: none"> 対象者：当事者・家族・支援者 高次脳機能障害の理解、支援方法の習得、社会資源の理解等 実績（年1回開催） <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13年度</td> <td>166名</td> </tr> <tr> <td>14年度</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>15年度</td> <td>68</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	参加者数	13年度	166名	14年度	73	15年度	68	<p>多くの参加者があり、モデル事業開始当初の啓蒙啓発としては成果があった。</p>	<p>平成15年度で終了し、平成16年度からはセミナーとして、一般県民を含めより多くの参加者を集める。</p>				
年 度	参加者数														
13年度	166名														
14年度	73														
15年度	68														

<p>セミナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者 一般県民、当事者・家族、保健・医療・福祉関係者 ・高次脳機能障害の理解、支援方策の検討 ・実績（年1回開催） <table border="1" data-bbox="521 300 1294 419"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>参 加 者 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度</td> <td>305名</td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>234</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	参 加 者 数	16年度	305名	17年度	234	<p>多くの参加者があり、高次脳機能障害の理解が深まり、支援方策の検討がなされた。</p>	<p>平成16年度は予想を超える参加者があり、平成17年度は定員を超える参加希望者があり、断った状況なので、収容人数の多い会場の確保を検討する。</p>
年 度	参 加 者 数								
16年度	305名								
17年度	234								
<p>パンフレット 「高次脳機能障害の理解と対応」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度作成 ・一般県民啓発用 ・5,000部作成 ・主な症状と対応、主な原因、相談窓口、医療機関一覧 	<p>一般県民啓発用として配布したが、更に医療機関、当事者団体、市町村から追加利用希望がある。 啓発啓蒙としては成果があった。</p>	<p>常に内容の見直しを検討していく。</p>						
<p>パンフレット 「更生施設における高次脳機能障害の方への支援」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度作成 ・更生施設利用希望者用 ・各担当セクション、スタッフの支援内容、支援事例紹介 ・300部作成 	<p>施設における高次脳機能障害者への支援に関してまとめられた。 また、事例を紹介することで、より理解を深める資料となった。</p>	<p>現在の更生施設では、高次脳機能障害者を受け入れる体制が不十分であるため、受入体制を整えていく必要があり、状況に応じての改訂が必要である。</p>						
<p>小冊子「高次脳機能障害の理解と対応」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度作成 ・当事者・家族及び支援者用 ・高次脳機能障害を理解するための手引書 ・6,000部作成 	<p>各種研修会で関連職種に積極的に配布し、理解促進に努めた。 当センター利用者にも説明の補足資料として活用した。</p>	<p>自立支援法の成立に伴い、制度の変更があるので、社会資源情報部分の改訂が必要である。</p>						
<p>小冊子「脳損傷と高次脳機能障害」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度作成 ・当事者・家族及び支援者用 ・高次脳機能障害を理解するための手引書 ・1,500部作成 	<p>救急病院等で当事者や家族が高次脳機能障害を発見したり、相談先に困った時に利用できる内容の冊子を作成した。</p>	<p>より多くの関係機関の窓口には置かれるよう配布することが必要である。</p>						

4 実態調査

事業名	実施結果	成果	課題
当事者・家族アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度実施 ・県総合リハビリテーションセンター利用者・脳外傷友の会会員の実態把握・要望を調査 ・対象者：210名 ・回答率：51.4% ・結果： 当事者は就労支援、リハビリ訓練、家族は居場所等福祉施設の希望多し。専門職員の養成希望多し。既存の援護の枠組みでは当てはまらない層がある。 	<p>当事者・家族の実態把握・要望が把握できた。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 生活実態や症状、周囲の環境等によって様々な困ったこと、要望が出された。 このためきめの細かい対策が必要である。 2 また、新しい援護の仕組みを提示する必要がある。 3 更に相談できる機関・窓口を拡充する必要がある。
障害者施設調査アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度実施 ・高次脳機能障害の認知度、受入状況、受入のための条件を調査 ・対象施設：精神障害者小規模作業所、心身障害者地域デイケア施設、身体障害者授産施設、精神障害者生活訓練施設等 293施設 ・回答率：53.6% ・結果： 認知度：89.3% 受入実績あり：45施設（28.7%）（精神障害者小規模作業所14、心身障害者地域デイケア施設23） 苦慮した経験あり：35施設（78%） 受入経験なしの理由：相談を受けたことがない（62.4%）、施設種別の対象者でない（14.1%） 受入のための必要な対策：専門的指導・研修（86.6%）、高次脳機能障害の認知（51.6%）、職員配置の充実（43.3%）、専門の作業所の整備（42.7%） 	<p>地域施設の実態が把握できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約90%の施設で認識が進んでいるが、受入れが進んでいない。 ・受入を阻んでいる理由の1つに制度の壁がある。 ・受入後苦慮した経験が多い。 ・これが専門機関の指導、援助の希望につながる。 ・制度を含む施設体制の強化、社会的認知を高めることを望む声も多い。 	<p>高次脳機能障害者が地域で生き生きと安定した社会生活を営むには、地域施設の役割が非常に大きい。</p> <p>このため、施設の受入体制の充実、支援技術の向上を強化する必要がある。</p>